



## 啓蒙活動

### (3)スタディツアー

2010年12月15日～20日まで、カンボジアスタディツアーを実施しました。今回は、プノンペン市内のみで帰国する短期コースとアンコールワット遺跡群を見学するコースに分けました。参加者10名(理事1名含む)のアンケートでは、「プロジェクト説明」、「音楽・美術交流会」、「CCH交流会」、「ボランティア作業(ブランコペンキ塗り)」などが特に印象に残ったようでした。今後も年1回のペースでツアーを充実させていきます。

### (4)現地コーディネート

プノンペン事務所は、1年間に26回、227名の訪問者を受け入れ、事業視察、贈呈式参加、ボランティア作業、交流会などを希望する個人、団体、企業等をコーディネートし、カンボジアの現状や活動内容を理解いただきました。

### (5)機関紙発行

「JHPニュース」を4回(6月・9月・12月・3月)3,500部発行し、会員・支援者への報告を行いました。昨年度に引き続き、デザイナーの協力で読みやすい紙面づくりを目指しました。

### (6)記録集発行

2009年度の活動内容をまとめた活動記録集『みんなの想い 平和への音色』を発行しました。今年度は別途印刷した事業報告を切り離してページ数を減らし、印刷費の削減も図ることができました。また、冒頭に索引(記録集の歩き方)を導入しました。制作は事務局・定期ボランティアを中心に行いました。

### (7)ホームページ

定期ボランティアによるホームページの管理・更新を行いました。東京・プノンペン事務所スタッフによる「JHP日記」(28回配信)、JHPボランティアによる「ボランティア日記」(22回配信)、5期カレッジ隊・活動隊の現地レポートを配信しました。アクセス解析のシステムを試験的に導入しアクセス数増加のための広報を課題に取り組みます。

### (8)メールマガジン

「JHP便り」(隔週配信・無料)を配信しました。登録者数290名。(全27回)国内でのボランティア募集やイベント広報、各種情報などを定期的に発信しました。配信作業は定期ボランティアが行いました。HPから簡単に登録ができます。  
<http://archive.mag2.com/0001011222/index.html>

### (9)啓発諸活動

#### ①報告会

カンボジアでのボランティア活動報告と次回以降の派遣希望者を対象に4月24日(土)、10月10日(日)に芝浦港南区民センターホールにて報告会と説明会を実施しました。

#### ②オリエンテーション

JHPの活動内容を紹介するオリエンテーションを月2回(原則第一土・第4金)実施しました。参加者は26名。今年度は社会人の参加者が多く、国際ボランティア・カレッジ聴講や事務所でのボランティア、翻訳ボランティアなどを始める方もいました。

#### ③絵画募集

第9回「JHPカンボジア絵画展」出展作品を募集し、国内の小中学校から合計282点の応募がありました。今年度はJHPのOBや過去に楽器を支援して下さった小学校の先生が、クラスぐみの活動として応募して下さる例が増加しました。



茨城県古河市立中央小学校からの作品を受け取ったカンダール県アヌワット小学校の生徒



第5期小山内美江子

## 国際ボランティア・カレッジ

### 第5期の概要

2010年9月11日(土)開講から、2011年3月26日(土)修了式までJHP・学校をつくる会事務所内会議室をメイン会場として開催。34名の全科目履修生のほか、大勢の聴講生が参加しました。社会人の参加が学生参加者数を上回り、元教員の方も多かったことが第5期の特色として挙げられます。本事業の特色である幅広い世代間による交流は、履修生同士が互いに影響しあい、人間的に成長する機会となり、彼らの将来に多大な影響を与えています。

約半年間にわたり、各分野で活躍されている総勢40名の講師陣による国内講義は、今までの価値観を考え直す機会を与え、多角的に考える人材育成の場となっています。3週間のカンボジア現地研修ではブランコ建設作業をはじめとするJHPプロジェクト参加や現地での活動する団体訪問等を行い、当会をはじめ、カンボジアで活動する諸団体の活動理解を深めています。カンボジアにおける諸問題等について各自が受け止め、また相手国を尊重しながら援助することを学ぶため、アンコール遺跡群を訪問・視察を行いカンボジアの歴史・文化を広く深く理解する研修となりました。

現地研修終盤時、東日本大震災が発生し、日本にいる家族の安否を心配しながらの研修となりましたが、帰国後、カレッジ生の多くはJHP災害緊急支援ボランティアスタッフとして、カレッジで学んだことを活かして現地で活動しています。



アンコール遺跡について解説する今川幸雄副塾長

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
全科目履修生	20人	19人	28人	31人	34人
出席率(平均)	62%	66%	68%	66%	70%
聴講生述べ人数	454人	377人	145人	94人	183人
講義数	83	83	72	68	71
講師数	34	37	42	40	41
現地研修参加者	12	13	17	18	24

### 参加者の声

・この3週間、3都市(プノンペン、ポーサット、シェムリアップ)をまわりカンボジアにおける大きなギャップを体感しました。自然と共存している田畑や赤土が広がる土地、観光地として栄える場所、どちらがこの国にあっているのか、それは先進国ではなくカンボジア人自らで決めていくことです。発展しつつあるとはいえ、貧困や医療、教育などまだまだ問題は残るカンボジア。カンボジア人だけでは困難な開発も、日本や他の国々の人が手を差し伸べて1日でもはやくカンボジア人の手によって、子どもからお年寄りまで全ての人が健康で幸せな生活ができる日がくることを願うと同時に、自分も何かその一部に携われたらと思いました。(平野 歩)

・3/11、シェムリアップにて、日本で観測史上最大の地震があったと聞きました。日本にいる家族が心配ですし、カンボジアにいて何もできない自分の非力さを実感しました。今まで海外の様々な災害のニュースを聞くことがありましたが、どれだけ共感することが出来ていたか考えさせられました。例えばハイチの大地震を知ったとき、募金などの行動に移すまでには時間がかかりましたし、おそらく本当の意味では被災者の気持ちは分かっていませんでした。自国が災害に遭ったとき、どれだけ心配するか自分の事として考えていませんでした。しかし今回、日本での大地震の報告を聞き、大変胸が苦しいです。日本の方々がとても心配です。それと同時に、今回の研修でのこの出来事をいつまでも忘れずにいて、他国の被災の時に今まで以上に思いやりを持ってほしいなと思っています。(熊久保 拓水)

